

令和元年度 事業実施報告

(平成31年4月1日～令和2年3月31日まで)

令和元年度、当協会は法人の名称を「公益財団法人岡谷市体育協会」として7年目の運営になった。岡谷市の市民スポーツの統括団体としてスポーツの果たす社会的役割の重要性を認識し、市民の健康の増進・体力の向上を図り、健康で豊かな人間性を涵養すること及び加盟団体の普及・強化にも寄与することを目的とした事業を推進した。実施にあたっては、加盟団体及び関係機関・団体と連携しながら以下の諸事業を実施した。

1 法人関係

- H30年度事業報告書・決算書等を作成し理事会・評議員会の承認後行政庁に提出した。
- 令和2年度事業計画書・予算書等を作成し理事会・評議員会の承認後行政庁に提出した。
- 毎月の巡回監査と指導及び税務申告業務を継続して小口税務会計事務所に委託した。

2 岡谷市からの受託事業について

- 岡谷市・岡谷市教育委員会が主催するスポーツ事業（大会・教室・イベント等）を引き続き受託し加盟団体等の協力を得て実施したが、2月以降新型コロナウイルス感染症に伴い一部中止する事態となった。
 - ・ スポーツ大会(57+3大会)・スポーツ教室(19教室)・ファミリースポーツプログラム(4イベント)
 - ・ 岡谷市のしゅん工(完了)検査結果は、全て「良好」判定を頂いた。・・・別資料

3 体育協会の事業の充実について

加盟団体と連携しながら、4つの専門委員会活動を積極的に推進した。事業の実施にあたっては市スポーツ振興事業補助金及び県スポーツ協会スポーツ振興事業補助金等を活用し、加盟団体主催の各種スポーツ大会、スポーツ教室等に対し支援と助成を行った。

4 自主財源の確保について

- 昨年に引き続きスポーツに理解を持つ事業所、個人等に対し賛助会員の加入促進を図った。景気の低迷等で会員の拡大は難しい状況が続いているが法人様のご支援もあり予算を達成できた。今後も、公益財団法人として寄附者は税法上の優遇措置が受けられる利点を生かした更なる促進活動が必要になります。
- 一方、競技力向上大会の協力金及び自販機設置による手数料収入は異常気象等の影響もあり未達となった。

5 体育協会事業活動の推進について

4つの専門委員会を中心に活動を推進した。

(1) 総務委員会

- 公益法人として情報開示が義務づけられた資料（定款・諸規程・事業計画・実施報告書・予

算・決算書等)の整備を図った。

- 事務局体制の見直しによる事務改善を推進した。
- 法人・個人に対し賛助会員の拡大を図るため広報(体協だより・市報等)への掲載や加盟団体に協力をお願いし加入促進を図った。前年比 30千円増となった。現状の厳しい経済情勢下で難しさはあるが、財政基盤の確立が急務であることを考えれば今後更なる対応が必要である。
- 賛助会員の状況(令和2年3月31日現在)

年度	法人	個人	金額
元年度(2019)	77社(85口)	83人(114口)	2,270,000円

(2) 事業委員会

- 各区対抗体育大会
 - ・11競技で5月～10月に亘り開催し延べ1,257名が参加した。
 - ・綱引き競技は「体育の日」の趣旨「スポーツに親しみ、健全な心身を培う」に基づく、秋のスポーツ祭の一事業として、併せて各区対抗総合体育大会表彰式を行った。
 - ・全競技終了後アンケートを実施し、次に向けた改善を図った。
- 受託事業
 - ・主管する協会とは個別に打合せを行い推進を図ったが、2月に新型コロナウイルス感染症の発生に伴い2月、3月の事業(大会2、教室2)が中止となった。
 - ・実施終了事業に関しては、市のしゅん工検査の結果は良好の判定を頂いた。
- 運動施設の保全、運営に対する要望調査
 - ・昨年度に引き続き、加盟団体の要望・意見等を集約し、利用者の安全確保を図ることを最優先に取り組んだ。
 - ・市の予算編成作業に間に合うようスポーツ施設等に係る要望書を市(市長)に提出した。
- 補助金の適正化
 - ・加盟団体への活動助成については、算定基準を明確化し、実施報告書を精査し限られた財源の効率的な活用を図った。
 - ・加盟団体代表者会議を開催し、「事業補助金等」について説明し理解と徹底を図った。
 - ・提出書類等は全般的に良好であり改善されている。

(3) 広報委員会

加盟団体の活動情報、競技会の成績情報、スポーツ活動の取り組み情報などを「体協だより」・「ホームページ」を通じ市民への提供に努めた。

- 体協だよりによる情報提供(24号、25号発行)
- ホームページによる情報提供(公益財団法人岡谷市体育協会HP)

(4) スポーツ少年団推進委員会

青少年のスポーツ活動を支援するため、スポーツ少年団の育成支援、登録促進に努め11団、団員・指導者含め279名が登録した。

- スポーツ少年団登録状況

年度	登録団数	団員数	指導者数
令和元年度	11団体(5種目)	212人	67人

6 市民スポーツ普及事業について

市民が競技スポーツや生涯スポーツを通じて、市民のスポーツの振興と市民の体力の向上を図るため、スポーツ大会・スポーツ教室・スポーツイベント等の開催・支援を行った。

- 開催事業(受託:岡谷市からの委託等)
 - ① 各区対抗体育大会
 - ② 市民スポーツ大会
 - ③ 市民スポーツ教室
 - ④ ファミリースポーツプログラム(イベント)
 - ⑤ スポーツ少年団スポーツ大会
- 支援事業(助成:補助金)
 - ① 市民スポーツ大会
 - ② 市民スポーツ教室

7 競技力向上事業について

市外の参加選手を含め開催するスポーツ大会に対し支援を行い、競技団体の組織強化と活動の充実を目指し、上位の大会進出を目指す選手層の拡大と競技力水準の向上を図った。

- 開催事業(受託:岡谷市からの委託等)
 - ① スポーツ大会
- 支援事業(助成:補助金)
 - ① スポーツ大会

8 全国大会出場選手の激励について

本協会「全国大会出場に係る補助金規程」に基づき、県大会もしくはブロック大会を勝ち抜き、全国大会に出場したチーム等に激励金を贈った。

- 全国官公庁軟式野球大会(軟式野球連盟岡谷支部)
- 第22回全国ヤングBVクラブ男子優勝大会(岡谷市バレーボール協会)
- 第22回全国ヤングBVクラブ女子優勝大会(岡谷市バレーボール協会)
- JOC都道府県中学BV大会(岡谷市バレーボール協会)
- 第41回全日本レディースソフトテニス大会(岡谷市ソフトテニス協会)
- 日本マスターズテニス競技大会(岡谷市テニス協会)
- 第69回全日本実業団卓球選手権大会(岡谷卓球連盟)
- 第2回全日本ラージボール卓球選手権大会(岡谷卓球連盟)
- 2019全日本卓球選手権大会(岡谷卓球連盟)
- 第53回全日本社会人卓球選手権大会(岡谷卓球連盟)
- 全日本卓球選手権大会(岡谷卓球連盟)
- 第32回全国ラージボール卓球大会(岡谷卓球連盟)

- 2020全日本卓球選手権大会(岡谷卓球連盟)
- 第42回全国JOCジュニア水泳競技大会(岡谷市水泳協会)
- 第42回全国JOCジュニアオリンピック水泳競技会(岡谷市水泳協会)
- 第42回スポ少全国剣道交流大会(岡谷市スポーツ少年団)

9 国体選手の激励と壮行会の開催について

岡谷市から長野県代表として参加する国体の選手・監督・コーチを激励するため9月12日(木)市役所9階会議室で体協役員・市関係者の出席により壮行会を開催した。

- 第74回国民体育大会 茨木県「いきいき茨木ゆめ国体」出場者数
選手:6競技18名(バレーボール12、バスケットボール2、弓道1、軟式野球1、卓球1、セーリング1)
コーチ:4競技4名(水泳、弓道1、卓球1、ボート1)

10 スポーツ少年団育成事業について

スポーツを通じて健康で明るい青少年の健全な育成を図るため、スポーツ少年団を育成するとともに団相互の親睦を図った。

11 指導者の育成事業について

競技者を指導する立場の指導者等においては、その社会的な使命や意識を自覚し、常にスポーツの基本である ルール、マナーを守り、フェアプレーの精神に則り行動することが求められている。今年度は、身体のメンテナンス(なぜ繰り返しケガをするのか)イップスのメカニズムについて石井整骨院(石井俊久先生)によるスポーツ指導者のさらなる資質の向上と活動促進及び望ましいスポーツ指導者のあり方について理解を深めた。

12 広報活動事業について

当協会のスポーツ活動の取り組み状況等の情報を提供することにより、市民のスポーツへの理解と関心を高め、市民のスポーツへ参加を促すため「体協だより」等を発刊、また当協会のホームページの内容の充実を図り、スポーツに関する広報活動に努めた。

13 体育振興功績者の表彰について

当協会表彰規程に基づき、理事会で決定し、栄光章(個人の部)3名、有功章(個人の部)9名を表彰した。

- 栄光章(個人の部)3名
 - ・倉坪克拓(岡谷スケート協会)・花岡瑚従(岡谷スケート協会)・松村千和(岡谷市水泳協会)
- 有功章(個人の部)9名
 - ・根本浩治、金子博、中村記和子(岡谷市ソフトテニス協会)、林新一(岡谷市水泳協会)
 - ・花岡敏弘博(岡谷市柔道協会)、長尾洋子、滝澤和江、(岡谷市ソフトボール協会)、
 - ・中澤三樹雄、中松茂夫(岡谷市スキー協会)